新潟県報道資料

新潟県

令　和　３　年　３　月　１２　日
新潟県地盤沈下調査連絡協議会
（事務局）県民生活・環境部環境対策課

令和２年度の地盤沈下調査結果がまとまりました。

国、県及び関係市は、「新潟県地盤沈下調査連絡協議会※」を設置し、県内の５地域で地盤沈下の調査を行っています。

令和２年度の調査結果（調査期間：令和元年９月１日～令和２年９月１日）は以下のとおりです。

※　新潟県地盤沈下調査連絡協議会の構成機関（事務局：新潟県）
農林水産省北陸農政局、経済産業省関東経済産業局、国土交通省北陸地方整備局、国土交通省国土地理院北陸地方測量部、新潟県、新潟市、長岡市、柏崎市、新発田市、上越市、南魚沼市

調査結果の概要

○　新潟・新発田地域

最も大きな沈下を示したのは、新潟市北区松浜町で、沈下量は 1.1cm であり、元年度の最大沈下量（1.2cm：新潟市北区松浜町)を下回りました。

○　上越地域

最も大きな沈下を示したのは、上越市大潟区渋柿五ヶ割で、沈下量は 0.2cm であり、元年度の最大沈下量（0.5cm：上越市柿崎区馬正面)を下回りました。

○　長岡地域

調査を隔年で実施しており、２年間で最も大きな沈下を示したのは、長岡市大手通一丁目で、２年間の沈下量は0.5cm でした。

これは、前回調査の最大沈下量（1.9cm：長岡市宮下町)を下回りました。

○　南魚沼地域

最も大きな沈下を示したのは、南魚沼市小栗山で、沈下量は 0.6cm であり、元年度の最大沈下量（1.1cm：南魚沼市六日町）を下回りました。

なお、柏崎地域は調査を隔年で実施しており、２年度は調査を実施しませんでした。

(参考)

- 地盤沈下は、地下水の過剰な汲み上げにより、主として粘土層が収縮することで起きる現象です。県内には、軟弱な粘土層を有する平野や盆地が存在し、それらの地域で地盤沈下が顕在化しています。
- 最近の最大沈下量の状況は別紙のとおりです。
- 詳細については、県ホームページに報告書を掲載しています。
(https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kankyotaisaku/1295298031419.html)

本件についてのお問い合わせ先
〔担当〕環境保全係　秋山
（直通）025-280-5154　（内線）2712

（別紙）最近の最大沈下量の状況

調査地域	最大沈下量を示した地点及び年間沈下量（ｃｍ）			
	令和２年度	令和元年度	平成 30 年度	過去の最大
新潟・新発田	**1.1** **新潟市北区松浜町**	1.2 新潟市北区松浜町	2.2 新発田市住吉町三丁目	53.7（S35） 新潟市西区寺尾上
上 越	**0.2** **上越市大潟区渋柿五ヶ割**	0.5 上越市柿崎区馬正面	2.8 上越市子安新田	10.1（S59） 上越市西城町
長 岡	**0.5※** **長岡市大手通一丁目**	隔年調査のため 休止	1.9※ 長岡市宮下町	3.7（H3） 長岡市蓮潟
南魚沼	**0.6** **南魚沼市小栗山**	1.1 南魚沼市六日町	1.0 南魚沼市六日町	9.2（S59） 南魚沼市余川
柏 崎	**隔年調査のため** **休止**	4.0※ 柏崎市柳橋町	隔年調査のため 休止	3.0（S63） 柏崎市元城町

※　隔年調査のため、２年間の沈下量を示す。